

一橋論叢第130巻総目次

論 説

	号	頁	通頁
法曹養成の新たな動向（2）			
—ドイツの二〇〇二年改正法—			
……………小野秀誠	1	1	1
ベンチャー・キャピタル・ファンドに関する基礎理論的考察			
……………仮屋広郷	1	18	18
事業再生における法的倒産手続の活用とプライベート・エクイティ・ファンド			
……………永石一郎	1	52	52
近代的価値観から多文化的共生への歩み			
—チャールズ・テイラーの問題提起から見えるもの—			
……………嶋崎隆	2	1	81
十九世紀宣教師文書から見た客家（Hakka）			
……………飯島典子	2	19	99
オーギュスト・コントの歴史哲学と社会組織の思想			
—フェティシズム論からの解説—			
……………杉本隆司	2	35	115
倫理と科学のはざままで			
—フライヤー社会学とルカーチ・マルクス主義の類似性をめぐる			
—考察— ……………柚木寛幸	2	56	136
「アメイジング・グレイス」の起源と背景			
……………櫻井雅人	3	1	169

ヨナ書——新約聖書と旧約聖書を結ぶもの	土 岐 健 治	3	20	188
ネイション・ ^{ナレイション} 語り・世俗批評家 ——エドワード・サイドをめぐる——	中 井 亜 佐 子	3	41	209
ウェルギリウス『牧歌』第3歌とオルペウスの像	日 向 太 郎	3	58	226
タイにおける国民語の思想 ——ワンワイタヤーコーン親王の言語思想についての一考察——	田 中 稔 穂	3	73	241
未知なる者への相互性なき友愛 ——モリス・ブランショの一九六〇年前後の交友関係について——	西 山 雄 二	3	90	258
ナルシズムと<他者>	比 嘉 徹 徳	3	107	275
経済社会学は福祉国家をどのように論じるか ——富永健一著『社会変動の中の福祉国家——家族の失敗と国家の新しい 機能』の批判——	渡 辺 雅 男	4	1	315
グローバリゼーションは福祉国家の終焉か? ——ネグリニハート『帝国』への批判的評注——	加 藤 哲 郎	4	16	330
福祉国家の転回—新自由主義から個的社会へ	高 田 一 夫	4	33	347
「社会的排除」問題と「21世紀型完全雇用」構想 ——ブレア福祉国家改革の射程と限界——	深 井 英 喜	4	48	362
若年失業・若年非正規雇用の増大と政策	西 野 史 子	4	65	379
「法と秩序」政策からみるイギリス「ニュー・レイバー」	山 口 響	4	81	395

国債先物のインプライド・ボラティリティとニュース	釜 江 廣 志 二 木 祥 代	5	1	431
自己株式取得に対する株価の反応	小 西 大 趙 ^{チョウ} ファンソク	5	22	452
中国における M&A と企業成長 ——中国華源集団の事例研究——	岑 ^{セン} 鏈 ^{レン} 瓊 ^{ホウ}	5	40	470
わが国証券市場における包括利益の評価	中 村 美 保	5	64	494
価値の構造	神 武 庸 四 郎	6	1	511
雇用契約における雇い主の「権限」 ——労働条件決定の政治経済学——	山 垣 真 浩	6	17	527
『ロンバード街』における「高貴な部分」 ——ウォルター・バジョットの政治経済思想を結合する試み——	山 根 聡 之	6	40	550
研究ノート				
台湾語の表記問題	松 永 正 義	3	123	291
ロマ書における「義とする」の意味	太 田 修 司	3	135	303
F・コルター「福祉とスポーツ政策」	内 海 和 雄	4	101	415
書 評				
木村周市朗『ドイツ福祉国家思想史』未来社, 二〇〇〇年	森 周 子	2	80	160

彙 報

学位授与者 (李 ^リ 建平 ^{ケンペイ} ・橋本正博)	1	80	80
学位授与者 (佐々木隆志・金 瑛 ^{エイ} ・溝上達也・平尾 毅 ^{イキ} ・藤野雅史 Habib Ahsan・柳瀬典由・山垣真浩) ...	2	87	167
学位授与者 (範 ^{ハン} 建亭 ^{ケンテイ})	3	146	314
学位授与者 (夏井春喜・石川竜一郎・東田啓作・丹野清人・山田高生)	4	113	427